

「愛のファミリー」「キタキツネ物語」の
サンリオ・フィルムが、ここに贈る、
「愛と「夢」の人形ファンタジー。

人形ファンタジー

くるみ割り人形

カラー長編映画、本邦超ステレオ・サウンド、サンリオ・フィルム作品
サンリオ・日本・ラカール映画、共同配給
サウンドトラック全巻、ポリトールレコード

「みにくい人形」、けれどクララにとっては命いのちだった。



SANRIO FILM Herald 日本ヘラルド映画

東京音協3月例会作品

大人 ¥850
小学生 ¥600

日比谷 スカラ座
(591)5355

渋谷スカラ座
(461)1929

新宿文化シネマ1
(354)2097

当日 一般……………¥1,300
大・高・中生………¥1,100の処
小学生……………¥800



クララといっしょに「夢の世界」を たずねてみませんか。

寝つかれない夜に見る、不思議な不思議な夢物語。
子供の頃って、眠ろうとしても、なかなか寝つかれないときがよくあるものです。
寒い冬の夜ふけ、まだ暖まらない寝床に入っていると、シーンと静まりかえった中に、窓の外は木枯しの音。そして遠くの方からは、ジャンカリン、ジャンカリンという夜まわりの音が近づいてくるのが聞こえてくる。「おや、まあ。まだ眠っていないんですか。いつまでも起きていると、今にジャンカリンがやって来ますよ。婆やがそういって、顔をのぞきこむ。すると、今にもジャンカリンがやって来そうだとわかってたまらず、一生懸命眠ろうとするが、眠れない。

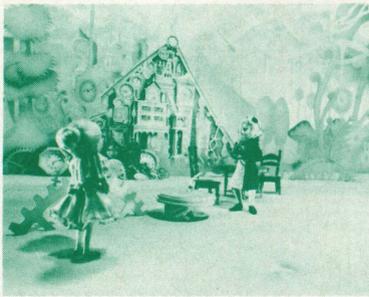


170年前の物語が、すてきな人形ファンタジーとなってよみがえった。
この物語は、今から約170年ほど前にE・T・A・ホフマン(1776-1822)によって書かれた「くるみ割り人形とネズミの王様」という作品をもとにして、楽しい人形ファンタジーにしたものです。このホフマンの作品は、1892年にチャイコフスキーがバレエ音楽として二つの組曲に構成。12月18日レニングラードのマリン劇場で初演され、以来「白鳥の湖(作品20)」とともに、バレエの代表的な作品として世界中で観賞されてきたというわけです。しかし、ホフマン、チャイコフスキーともに、空想的な芸術家のうえ、この物語が夢の物語のために、理解されずしかもよく知られていませんでした。そこで、小さな人形を使い、この人形ファンタジー「くるみ割り人形」を映画化するにあたって、ホフマンとチャイコフスキーの原作を尊びながら、わかりやすく、楽しい夢のお話にしたのです。

不思議な夢の世界

「くるみ割り人形」さて、お話は19世紀のドイツ。シュタールbaum家の少女クララは、ある夜ドロツセルマイヤーおじさんに「くるみ割り人形」をもらったことから、夢の中で不思議なことに巻き込まれます。ネズミ軍と、フリッツお兄さまにそっくりな、人形軍を率いる近衛隊長のフランツとの戦い。でも、そのフランツも、ネズミ軍のマウゼリンクス夫人の呪いのために醜い「くるみ割り人形」に変わり

果てるのでした。クララは、何んとかその呪いを解こうと、奔走します。そして、その呪いは、クララの「くるみ割り人形」への愛の力で、もとのフランツに。……と、クララが目覚めたのは、昨夜寝入ったベッドの上。そばには、大好きなフリッツお兄さまが。そして婆やが、いつものように働いていたのでした。このすてきなクララ役は、杉田かおるが、フリッツとフランツは男らしさいっぱい志垣太郎が好演しています。ドロツセルマイヤーはベテランの西村晃がさらに、声の応援出演として昭和九年会が、独自のキヤラクターを生かして頑張っています。また、益田喜頓は人形の城の皇帝として、あの独特の声を聞かせています。もうひとつ、ドラマの中で、美しい音楽をバックに踊っているのが森下洋子、その夫君の清水哲太郎と、多彩です。



1日、数秒のコマ撮りに、全製作者が情熱を傾けた。
原作とは、またひと味違った人形ファンタジー「くるみ割り人形」。主人公のクララが、人形造りの名人ドロツセルマイ

ヤーおじさんに誘われて、夢の世界に入っていくというお話。その中で、人を信じてゆく素直な心とやさしい思いやり。そして、愛とは一体何なのか。本当に人を愛するということとは？をじっくりとさぐっていきます。映画では、あの素晴らしい繰返しに始まるクララのテーマ曲「ゆりかごのうた」の調べが、私達をいつしか夢と幻想の世界へと導きます。監督は、人形、アニメーションとして長い経験をもつ中村武雄が。ひとコマひとコマ、絶妙なまでに巧みに人形を動かし続けるアニメーターの真賀里文子。さらに、この物語にぴったりな幻想美術の舞台を担当しているのが、山下宏。照明が中谷敏晴、撮影が大谷文夫といずれも一流人がひとコマに情熱を傾けて撮影。1日数秒しか撮れない日もあったほど。また、音楽監督は鍋島常敬。古典音楽と現代音楽をクロスオーバーさせ、クララのテーマ「ゆりかごのうた」を、小泉和裕指揮の新しい日本フィルが演奏。美しい音楽の世界をつくりあげています。この美しい演奏にのって世界のプリマドンナ、森下洋子が踊りで雰囲気盛り上げます。数多くの人形の振り付けは、森下さんのお主人である清水哲太郎がみんなが、それぞれ分野で力を発揮して、ひとつになり「くるみ割り人形」は完成したのであります。さあ、今宵、眠れぬ夜を、クララとともに夢の世界を訪ねてみませんか。

製作・脚本……辻信太郎
監督……中村武雄
プロデューサー……富岡厚司
アニメーター……真賀里文子

人形ファンタジー

くるみ割り人形

SANRIO FILM 日本ヘラルド映画

カラー長編映画/4ch超ステレオ・サウンド/サンリオ・フィルム作品

サンリオ・日本ヘラルド映画 共同配給/サウンド・トラック盤 ポリドール・レコード/カバー・レコード コロムビア・レコード

